

石井賞入賞作品集

今田欣一

わ	ら	や	ま	ぱ	な	だ	ざ	が	あ
み	り	ゆ	み	び	に	ら	と	ぎ	い
ん	る	ゆ	む	ぶ	ぬ	づ	ず	ぐ	う
ゑ	れ	よ	め	ふ	ね	で	ぜ	げ	え
を	ら	ふ	も	べ	の	ど	ぞ	ご	お
ワ	ラ	ヤ	マ	パ	ナ	ダ	ザ	ガ	ア
牛	リ	エ	ミ	ピ	ニ	ヂ	ジ	ギ	イ
ン	ル	ユ	ム	プ	ヌ	ヅ	ズ	グ	ウ
エ	レ	ヨ	メ	ペ	ネ	デ	ゼ	ゲ	エ
ヲ	ロ	コ	モ	ポ	ノ	ド	ゾ	ゴ	オ
辺	夜	井	般	風	集	愛	電	祝	石
展	庭	東	従	会	作	人	久	魚	創
心	調	回	品	子	女	賞	光	印	際
闘	興	第	業	紙	願	成	上	推	手
者	秋	森	機	激	永	燃	為	曇	驚
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

第六回石井賞（一九八〇年）

第三位受賞書体

デコレイティブな書体である。木版画を思わせる素朴な暖かい味わいのある「質感」を表現したものである。木版画といっても、浮世絵のような板目木版ではなく、欧米の木口木版の鋭利で細密なテクスチャのイメージである。木口木版は、固いツゲの木の水平断面を磨いてさらに固くして彫刻する。木口の版木はとても硬いため彫刻刀は使えないため、銅版画のようにビュランを使って彫るといふ。版が堅固なため、写真版が無かった頃には活版と同じ版に組みつけて直接印刷したのだそうだ。それに加えて、「質感」をも感じさせるようにラインの太さと交差の処理を工夫した。運筆に沿ったラインによる書体で、すべて手書きによって制作した。

愛らじい女だぢ。春を祝う森
の調へに光る風。川におどる
魚。おりなず糸のあやのまま
に燃えだづ女心を愛機にだぐ
じでアラペズグ風におりあげ

愛らじい女だぢ。春を祝う森
の調へに光る風。川におどる
魚。おりなず糸のあやのまま
に燃えだづ女心を愛機にだぐ
じでアラペズグ風におりあげ

わらやまばなだざがあ
ありみびにぢじぎい
んるゆむぶぬづずぐう
えれめぺねでせげえ
をろよもほのどそこお
ワラヤマパナダザガア
ヰリミピニヂジギイ
ンルユムプヌツズグウ
エレメペネデセゲエ
ヲロヨモポノドゾゴオ

上剛局恒騒祝為義手耆
推燃川久際成派風魚光
会省糸機般人女業森漏
秋夜東器輿曇込化國關
調物心電毎印願永愛徒

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

第七回石井賞（一九八二年）

第一位受賞書体

江戸切子にみられるカット技術による模様を応用し、ウルトラボールド・ウエイットの文字を構成する広い平面に、濃度ムラを表現しようとしていたのだ。それは作為的ではなく自然な味わいで描写することが必要であった。田鶴年の刻による「鮮齋永濯碑銘」（一九〇二年、亀戸天神社）をベースにして、その筆圧と筆速による濃淡を単線スクリーンからのヒントでえられた階調であらわした。単線スクリーンは、階調のある画像を多数の平行線に置き換えたものである。歴史的には網目スクリーンより前にあらわれている。再現性は悪いが、単線スクリーンの迫力は、イラストレーションのような効果が期待できる。この書体もすべて手書きによって制作した。

登らじい女たち。春を祝う森
の調べに光る風。川におどる
魚。おりなず糸のあやのまま
に燃えだづ女心を登機にたく
じでアラペスグ風にありあけ

登らじい女たち。春を祝う森
の調べに光る風。川におどる
魚。おりなず糸のあやのまま
に燃えだづ女心を登機にたく
じでアラペスグ風にありあけ

HORIZONTAL
1988

第一〇回石井賞（一九八八年）

第一位受賞書体

前衛的書体第一弾。井筒屋本『おくのほそ道』（松尾芭蕉著）をベースに、蟹行の和様体として試作した。構造のヒントになったのは欧字のイタリック体である。イタリック体はルネサンス期にイタリアで広まった傾斜のついた筆写書体である。漢字を欧文の大文字に見立て、欧字のようにベース・ラインを設定し、和字の高さを三つのグループに分類した。このようなライン・システムによって、和字本来の伸びやかさと字並びの美しさを同時に表現しようとした。また、和様体のままの省略形だと今は読めないものになっってしまうので、横組用としてラインを揃えることを考えて楷書のように起筆・送筆・終筆をはっきりさせて、和様体をベースにした行書と楷書の間書の書風とした。

愛らしい女たちが春を祝い、
光る風にぎざわれで
子どもだらば路上におどろ。

手際よく作業をおえた
メリグリウスは、
創作者どりで
わぎ興る燃えるような愛を
もであまじでいだ。
アポロコが為ずど、それば
恒久なる者どりで推される。
アポロコに従わねば
手品のごどぐ
石や紙ざれど成る。
激しい闘いは電光をよび、
人魚だちを驚がぜだ。
人びどの願いががたう機会ば、
せうズの心が展ぐ
曇つた夜の東の風に
だぐざれるのであつた。

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にぎざわれで子どもだらば路上におどろ。手際よく作業をおえたメリグリウスは、創作者どりのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいだ。アポロコが為ずど、それば恒久なる者どりで推される。アポロコに従わねば手品のごどぐ石や紙ざれど成る。激しい闘いは電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががたう機会ば、せうズの心が展ぐ曇つた夜の東の風にだぐざれるのであつた。

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にぎざわれで子どもだらば路上におどろ。手際よく作業をおえたメリグリウスは、創作者どりのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいだ。アポロコが為ずど、それば恒久なる者どりで推される。アポロコに従わねば手品のごどぐ石や紙ざれど成る。激しい闘いは電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががたう機会ば、せうズの心が展ぐ曇つた夜の東の風にだぐざれるのであつた。

第一〇回石井賞一位・書体見本

オ	ゴ	ゾ	ド	ノ	ポ	セ	コ	ロ	シ	曇	燃	激	森	者				
エ	ゲ	ゼ	デ	ネ	ペ	メ	シ	エ	推	成	紙	第	鬪					
ウ	グ	ズ	ヅ	ヌ	プ	ム	ユ	ル	印	賞	子	回	心					
イ	ギ	ジ	ヂ	ニ	ビ	ミ	リ	斗	魚	人	会	東	展					
ア	ガ	ザ	ダ	ナ	パ	マ	ヤ	ラ	祝	愛	風	井	辺					
お	ご	ぞ	ど	の	ぱ	も	よ	ら	驚	為	永	機	秋					
え	げ	ぜ	で	ね	ぺ	め	れ	よ	手	上	願	業	興					
う	ぐ	ず	づ	ぬ	ぷ	む	ゆ	る	際	光	女	品	調					
い	ぎ	じ	ぢ	に	び	み	り	み	創	久	作	從	庭					
あ	が	ざ	だ	な	ぱ	ま	や	ら	石	電	集	般	夜					
									0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

VERTICAL
1990

第二回石井賞（一九九〇年）

第二位受賞書体

前衛的書体・第二弾。南庵版『信長記』（小瀬南庵著）をベースに、日本・鎌倉時代初期の藤原俊成書風と中国・宋の福建刊本字様をヒントに制作した。俊成様といわれる書風は、枯れ枝のようだと折れ釘のようだとも言われてきた。あるいは「圭角がある」というような、けっして褒めことばだとは受けとれない形容が与えられた。印象だけからすると、俊成以前の書は「王朝風」であり、俊成の書は「武家風」といえる。男性の貴族が書いた「王朝風」に女性的な流麗さを感じ、武士ではないが俊成の「武士風」に男性的な荒々しさ、精悍さを感じるのである。手書き風書体がコンテストの上位を占めているという傾向に対し、藤原俊成の書風に感じたイメージを活字書体として再生させようとしたものである。

愛らトイ女だぢが春を祝い、光る風にぎぞわれで子どもだぢば路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウスば、創作者どとでワおぎ興る燃えるような愛をもであまトでいだ。アポロンが為ずど、ぞれば恒久なる者どとで推される。アポロンに従おねば手品のどぐ石や紙ぎれど成る。激トイ闘いば電光をよび、人魚だぢを驚がせだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇アだ夜の東風トだぐぎれるワであブだ。

愛らトイ女だぢが春を祝い、光る風にぎぞわれで子どもだぢば路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウスば、創作者どとでワおぎ興る燃えるような愛をもであまトでいだ。アポロンが為ずど、ぞれば恒久なる者どとで推される。アポロンに従おねば手品のどぐ石や紙ぎれど成る。激トイ闘いば電光をよび、人魚だぢを驚がせだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇アだ夜の東

愛らトイ女だぢが春を祝い、
光る風にぎぞわれで

子どもだぢば路上におどる。
手際よく作業をおえだ

メリグリウスば、
創作者どとでワ

おぎ興る燃えるような愛を
もであまトでいだ。

アポロンが為ずど、ぞれば
恒久なる者どとで推される。

アポロンに従おねば
手品のどぐ

石や紙ぎれど成る。
激トイ闘いば電光をよび、

人魚だぢを驚がせだ。
人びどの願いががなう機会ば、

ゼウズの心が展ぐ
曇アだ夜の東の風ト

だぐぎれるワであブだ。

第一一回石井賞二位・書体見本

あ	い	う	え	お	ア	イ	ウ	エ	オ	石創際手驚	ㇿ
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	祝魚印推曇	ㇾ
ぎ	ト	ず	ぜ	ぞ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	電久光上為	ㇽ
だ	ヂ	ブ	ズ	ど	ダ	チ	ツ	テ	ド	愛人賞成燃	ㇼ
な	に	ぬ	ね	の	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	集作女願永	ㇻ
ぱ	ピ	ぷ	ぽ	ぱ	ピ	プ	ポ	パ	ポ	風会子紙激	ㇺ
ま	み	む	め	も	マ	ミ	ム	メ	モ	般従品業機	ㇻ
や	ゆ	ゆ	よ	や	ユ	ヨ	ヤ	ユ	ヨ	井東回第森	ㇺ
ら	り	る	れ	ろ	ラ	リ	ル	レ	ロ	夜庭調興秋	ㇼ
お	み	ん	ゑ	を	ワ	ヰ	ン	エ	ヲ	辺展心闘者	ㇽ

第一四回石井賞（一九九六年）

第二位受賞書体

第三のテーマはペンマンシップです。自分の手跡をベースにして、活字書体に展開したものです。のちに『書道教範』（井上千圃著、一九三四年、文洋社）を参考にして、ペンマンシップ3書体を制作しました。日本ペン習字研究会は、当時の小学国語読本筆耕者の井上千圃（高太郎 一八七二—一九四〇）を会長に招いて一九三二年（昭和七）に創立され、全国規模のペン習字の通信教育を実施しました。井上千圃は東京都出身の細字書家で、とくにペン字が出色だったといわれています。現在もペン習字の通信教育を実施するとともに、月刊機関誌『ペンの光』を発行して、時宜に即した手本、書写技能に関する解説、清書の募集とその評価を行い、ペン習字の発展・普及に努めています。

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にざざわれで子どもたちは路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウズは、創作者どとでのわぎ興る燃えるような愛をもてあまっていた。アポロンが為ずど、それば恒久なる者どとで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚たちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風にだぐされるのであつだ。

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にざざわれで子どもたちは路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウズは、創作者どとでのわぎ興る燃えるような愛をもてあまっていた。アポロンが為ずど、それば恒久なる者どとで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚たちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にざざわれで子どもたちは路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウズは、創作者どとでのわぎ興る燃えるような愛をもてあまっていた。アポロンが為ずど、それば恒久なる者どとで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚たちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風にだぐされるのであつだ。

愛らしい女たちが春を祝い、光る風にざざわれで子どもたちは路上におどる。手際よく作業をおえだメリグリウズは、創作者どとでのわぎ興る燃えるような愛をもてあまっていた。アポロンが為ずど、それば恒久なる者どとで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚たちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風に

第一四回石井賞二位・書体見本

あいうえおアイウエオ
がぎぐげごガギグゲゴ
ざぞずぜぞザジズゼゾ
だぢづでどダヂヅデド
なにぬねのナニヌネノ
ぱぴぷぺぽパピプペポ
まみむめもマミムメモ
やゆゆよヤユヨ
らりるれらラリルレロ
わみんゑをワヰンエヲ

石創際手驚
祝魚印推曇
電久光上為
愛人賞成燃
集作女願永
風会子紙激
般従品業機
井東回第森
夜庭調興秋
辺展心闘者

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

第一五回石井賞（一九九八年）

未出品参考書体

楷書体、行書体の硬筆書体はよくあるが、隷書体の硬筆書体はみられない。『書道教範』（井上千圓著、一九三四年、文洋社）でも隷書は毛筆のみである。そこで、自分の手跡をベースにして、活字書体に展開した。学校教育では学習することはないが、かつては謄写版印刷や製図などでは書かれていたものである。楷書体、行書体とともに隷書体の硬筆書体にも市民権をあたえたいものである。ちなみに、漢字書体では『中国硬筆書法字典』（司惠国・王玉孝主編、二〇〇三年、世界図書出版公司）には硬筆の隷書がみられるが、中国で出版されたものなので当然のことながら和字書体は存在しない。この書体は、第一五回石井賞創作タイプフェイス・コンテストには出品しなかった。

愛らしい女だちが春を祝い、光る風にざぞわれで子どもだちば路上におどる。手際よく作業をおえたメリグリウズば、創作者どじでのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいた。アポロンが為らずど、それば恒久なる者どじで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風にだぐざれるのであづだ。

愛らしい女だちが春を祝い、光る風にざぞわれで子どもだちば路上におどる。手際よく作業をおえたメリグリウズば、創作者どじでのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいた。アポロンが為らずど、それば恒久なる者どじで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東

愛らしい女だちが春を祝い、光る風にざぞわれで子どもだちば路上におどる。手際よく作業をおえたメリグリウズば、創作者どじでのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいた。アポロンが為らずど、それば恒久なる者どじで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風にだぐざれるのであづだ。

愛らしい女だちが春を祝い、光る風にざぞわれで子どもだちば路上におどる。手際よく作業をおえたメリグリウズば、創作者どじでのわぎ興る燃えるような愛をもであまじでいた。アポロンが為らずど、それば恒久なる者どじで推される。アポロンに従わねば手品のごどぐ石や紙ぎれど成る。激しい闘いば電光をよび、人魚だちを驚がぜだ。人びどの願いががなう機会ば、ゼウズの心が展ぐ曇づだ夜の東風に

第一五回石井賞参考作品・書体見本

あいうえおアアイウエオ
がぎぐげごガギグゲゴ
ざじずぜぞザジズゼゾ
だぢづでどダヂヅデド
なにぬねのナニヌネノ
ぱぴぷぺぽパピプペポ
まみむめもマミムメモ
やゆよヤユヨ
らりるれろラリルレロ
わみるゑをワヰンエヲ

石創際手驚
祝魚印推曇
電久光上為
愛人賞成燃
集作女願永
風会子紙激
般従品業機
井東回第森
夜庭調興秋
辺展心闘者

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

今田欣一の石井賞入選記録

1970	第1回	出品なし
1972	第2回	出品なし
1974	第3回	出品なし
1976	第4回	出品なし
1978	第5回	佳作 1 点
1980	第6回	●第 3 位
1982	第7回	●第 1 位 ※第 1 位の書体は商品化された
1984	第8回	佳作 1 点
1986	第9回	佳作 2 点
1988	第10回	●第 1 位・佳作 2 点 ※第 1 位の書体は商品化された
1990	第11回	●第 2 位・佳作 1 点 ※第 2 位の書体は商品化された
1992	第12回	入選なし
1994	第13回	佳作 1 点
1996	第14回	●第 2 位
1998	第15回	●未出品 ※PENMANSHIPの書体を自主制作（漢字は1006字）

今田欣一の石井賞入賞作品集

初版：2009年4月1日発行

：2010年5月1日改訂

有限会社今田欣一デザイン室

<http://www.kinkido.net/KIDS/KIDS.html>

info@kinkido.net

KIDS

Kinichi Imada Design Studio